

## 私にも夢がある

福岡県 久留米市立青陵中学校 1年  
岩根 伊佐 (いわね いさ)

「おい、外人。お前外人やろ。」

5才の時、保育園で初めて同じクラスの子に言われたとき、私はびっくりして体が固まってしまいました。周りの子も一緒になって「外人、外人」とからかいました。私は初めて「外人」という言葉を聞いたのでわけが分かりませんでした。が、なんとなく悪いことなのだろうと思いました。家に帰ってから母に

「外人って何？おれ外人やと？」

と尋ねると、父親が外国出身だと教えてくれました。その説明を聞いても5才の私にはピンときませんでした。私の父は他の子のお父さんとどう違うのか分からなかったのです。父は私にとって、いつも優しくて明るい父でした。しかしからかわれているうちに、私だけが他の子と違って、それはとても恥ずかしいことだと感じてきました。赤ちゃんの頃から一緒に遊んでいた仲間からはずれて、急に一人ぼっちになった気持ちになりました。小学生や中学生になっても「外人」と言いながらボールを投げつけられたり、「黒人」「背の高いやつはキモい。」などと言われたりが続きました。知らない人から言われた時もショックでしたが、今まで仲良く遊んでいた友達に言われた時はもっと悲しくなって、私は何も言うことができませんでした。周りの人たちも一緒になってからかってくるのです。私の見た目は周りの人達とは少し違って見えるのだと分かりました。私は毎日顔も体も隠して生活したいと思いましたが、それは難しいことでした。親が外国出身であることも、見た目が周りの人と違うことも私にはどうしようもありません。どうしようもないので家に帰ってから両親に、

「なんでお父さんは外国人やと？日本人のお父さんがよかった。」

と言いました。両親が悲しそうな顔をしたので、私はもっと悲しくなりました。私も父に傷つくことを言ってしまったのです。

ある時、私は学校の図書室でキング牧師の伝記を読みました。キング牧師は「I have a dream (私には夢がある)」という言葉から始まる有名な演説を行った人物で、アメリカで黒人差別と闘いました。私は彼の伝記を読んだ時に、残酷

な差別が存在することを学び苦しい気持ちになりましたが、差別と闘うキング牧師への尊敬の念が生まれました。また、世の中には人種差別の他にも、男女差別や障害者差別、身分差別などいろいろな差別があることも勉強しました。生まれつきのことや、本人にはどうしようもないことをバカにされたり、生活を制限されたりして、悲しい思いや不自由な生活をする人がたくさんいるのです。「差別」と聞いたら何か特別なことだと考えられがちですが、実は特別なことではありません。日常のささいな所で日々、起こっています。おそらく、私に傷つくことを言った人たちは軽い気持ちで差別的な発言をしたのだと思います。でもその発言は私の心を深く傷つけ、思い出す度に私の胸を苦しめています。もしその人たちも海外に行って、逆に肌の色や見た目をバカにされたらどんな気持ちになるでしょうか。私も深く考えず、いつも私を大事にしてくれた父に差別的な発言をして、父を深く悲しませてしまいました。こうした発言は相手がどう思うかを考えて口に出さないように気をつけるべきだと思います。

私の父も日本に来てから生活する中で、たくさんの差別的な発言を受けたことがあるそうです。ある時私は父にそれでもなぜ日本で生活しているのかと尋ねました。私だったらつらくてここにいたくないと思うでしょう。すると父は、傷つくようなことを言う人もいたけれど、それよりもっとたくさんの優しい友達や励ましてくれる人たちが周りにいるので、日本が大好きだし毎日が楽しいからと教えてくれました。私はそれを聞いて、確かに私の周りにも、私の見た目のことを全く気にせず、仲良くしてくれる友達や支えてくれる大人たちもたくさんいることに気づきました。その人たちのことを考えるととても楽しい気持ちになり、自分の見た目が他の人と違っていても親がどこの国から来ても、恥ずかしがったり悪いことをしているような気持ちになったりしなくてもよいと感じました。そのような人たちをお手本にして、私も他の人の見た目や人種などで差別しないように気をつけたいと思います。

キング牧師は「私には夢がある」と語り、差別のない社会で黒人と白人が共に仲良く生活することを夢見ていました。私にも夢があります。生まれつきの個性をお互いに尊重して、みんな自分に自信を持って胸を張って生活する社会を実現することです。それはみんなが幸せに生活できる平和な社会にもなります。一人一人が相手への思いやりを忘れなければ、それは可能です。みんなで同じ夢を実現させませんか。